

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

北米西海岸南部（PSW）のロサンゼルス・ロングビーチ港では過去2年、年末年始に直面したような大きな混雑もなく、現在も日本向けの直行便は安定的なスケジュールで運航されています。

海上運賃は、コロナ禍の巣ごもり需要で20年に急激に高騰したものの、22年夏以降、世界的なインフレや景気の減退からコンテナの荷動きが鈍化し船腹に余剰が出ており、コロナウィルス感染拡大前の水準に戻りつつあります。

昨年から続いている西海岸の港湾労使交渉は今のところ、進展は発表されていません。これまでオークランド港やロサンゼルス・ロングビーチ港では、短時間の荷役停止やスローダウン等の小規模活動が散発的に行われましたが、大きな影響は出ていない状況です。今回の交渉は港湾作業の自動化が最大の争点と言われており、過去の交渉を鑑みると契約の締結まで気が抜けない状況が続きます。

ビートパルプ

【米国】

産地では22-23年産の生産が続いています。一部の地域では、労働力の確保に苦慮し、また工場の乾燥用ドライヤーが故障したため、ビートパルプの生産に遅れが生じています。この影響で乾燥工程の必要が無い内需向けのウェットパルプの出荷が増加しており、輸出向けのビートパルプの生産量の減少が懸念されています。また冬期に入り、降雪等の天候不順が続いているため、工場から積み出し港への鉄道輸送で不安定なスケジュールが続いています。

アルファルファ

中国農業省は1月13日、米国産遺伝子組み換え（GMO）作物8種類の輸入を承認したと発表しました。この8種類の作物の中には、アルファルファも含まれており、今回、除草剤耐性のある2品種が承認されました。これまで中国はGMO種アルファルファの輸入を禁止していたため、輸出需要が多い西海岸の多くの地域でGMO種の作付けが敬遠されてきましたが、輸出向けアルファルファの60%を占める中国が今回輸入を解禁することから、今後GMO種の作付面積が徐々に増加が見込まれています。

ワシントン州

産地では冬期に入り、降雪の影響で放牧草が利用できないことから、米国内需向けで低級品の引き合いが増えています。一方で直近の米国内の乳価が一時期の高値に比べ軟調で、国内内需は必要最低限の買付に抑える傾向が見られます。

カルフォルニア州

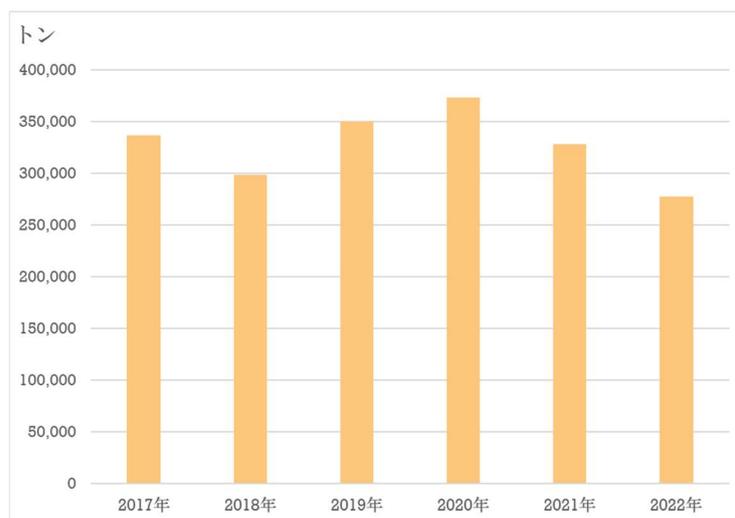
カルフォルニア州南部インペリアルバレーでは、23年産の生産が進んでおり、一部の圃場で収穫が開始されています。産地では冬期に入り冷涼な気候が続いており、輸出向けの乾草が生産できないため、大半が内需向けに販売されています。一方でアルファルファ需要の強い、中国向けは旧正月を迎え、1月に入り需要は落ち着いていましたが、直近では徐々に回復を見せています。

産地当局から発表されました、1月15日付けのインペリアルバレーにおけるアルファルファの作付面積は前年同期比114%となる153,369エーカーとなっています。

米国産チモシー

22年産で異常な高値となったため、日本のみならず韓国でも需要が減少しています。産地の輸出業者によっては工場の操業に苦慮しており、資金繰りと工場稼働改善のため、価格調整を行い、出荷を促しています。

農林水産省・植物防疫所から発表された輸入統計によると、22年1-12月における米国産チモシーの輸入量は277,231トンとなっており、前年21年に比べ、およそ50,000トン、一昨年20年に比べ100,000トン減少しています。このことから、高止まりした米国産チモシーの需要減少が分かります。



(米国産チモシー輸入数量の推移 出典：植物防疫所 植物検疫統計データ)

スーダングラス

22年産は各輸出業者で繰り越し在庫がないまま、収穫が開始され旺盛に買付が行なわれました。加えて旱魃に起因する節水の懸念から生産量の減少を危惧し、競争が激化し、その結果、21年産対比で大幅な値上がりとなりました。一方、高値で推移していることから、日本での需要は減少傾向にあります。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

カルフォルニア州南部インペリアルバレーの灌漑局から発表となった1月15日時点の作付面積は21,895エーカー（昨年同時期19,462エーカー）、前年同時期比113%となっています。

今冬は西海岸全域で降雨や降雪量が例年以上となっており、春先から自給飼料の活用が望めることから、一時、旺盛であった内需からの引き合いは一服しています。このため輸出業者によっては22年産からの繰越在庫多く保有したまま、4～5月にかけて始まる新穀の収穫作業を迎える可能性があります。

バミューダ

バミューダハイは米国内の酪農家及び馬糧からの引き合いが強い一方で、輸出需要は減少傾向にあります。バミューダストローに関しても輸出需要の減退はあったものの、国内の酪農家及び肥育農家向けに対して、相対的に安価な繊維源として現在も取引されています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

アニュアル種のライグラスストローは、主な輸出先である韓国において自給飼料の作況が良好であったことや、22年産で多くの低級品が発生した豪州産オーツハイの影響を受けて船積みが鈍化しています。

他方でオレゴン産ストローが出荷されるポートランド港では、毎年冬期になると空コンテナ不足によるスケジュールの遅れが懸念されていましたが、直近では大きな問題となっておらず、出荷が続けられています。

カナダ産チモシー

産地アルバータ州では、降雪の影響で国内の輸送が混乱し、工場の生産に遅れが生じています。また、景気後退に伴い、カナダでも輸入貨物が減少しているため、空コンテナ不足となっており、各船社で船腹予約が取りづらい状況となっています。

豪州産オーツハイ

22年産オーツハイは東豪州、南豪州において収穫期に発生した「ラニーニャ現象」と「負のインド洋ダイポールモード」の影響で洪水を伴う断続的な降雨に見舞われたため、これらの地域では低級品中心の生産となりました。特に東豪州では重度の雨当たりから、輸出に適さない品質が多く発生しています。また圃場が水浸しになり、自給粗飼料の収穫ができなかった酪農家からの需要が高まり、国内相場は堅調に推移しています。一方で降雨の影響がなかった西豪州では、上級品中心に中級品から低級品までバランスよく収穫されています。

豪州コンテナ船情勢

右肩上がりで上昇していた豪州航路の運賃は、景気後退に伴い、ピークに達した印象で、若干ではありますが軟化傾向にあります。

直近では中国における旧正月前に実施された「ゼロコロナ政策」の影響で中国内の工場や港湾の稼働が鈍化したことで、中国から豪州向けの輸出が減少しコンテナ定期船の減便が行なわれました。この影響で空コンテナ不足に加え、船腹も不足しており、2週間～1か月程度のスケジュールの遅延が発生しています。

以上